

児童生徒支援のための 『ワンポイント・アドバイス』 ～授業のスタートに向けて～



学級づくり 12 箇月

5月号

京都府丹後教育局

Tel : 0772-22-2175 Fax : 0772-22-0479
HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/>

この便りは、平成 24 年度丹後特別支援教育研究会研究グループⅡの協力を得て作成しております。

児童生徒の学習や行動の見立て

～その子のつまずきの要因を丁寧にみる～

普段の学級で、気になる児童生徒の学習や行動のようすをよく観察してみましょう。言葉・行動のパターン・他の児童生徒同士のかかわり・トラブルなど、学習面や行動面を視点を変えてみることで、その行動の背景にあるものや理由が見えてくることもあります。そのことが本人にとって、有効な支援につながったり、学級全体が落ち着いて学習に取り組める雰囲気づくりに役立ったりするものです。

学習面

例えば「音読をする」という課題にうまく取り組めない児童生徒について考えてみましょう。繰り返し練習することで「努力すればできる」ことを感じられるのは、素晴らしいことですが、その方法が本人にとって苦痛になり、自己有能感を下げってしまうこともあります。まずは「なぜ音読が苦手か」ということを考え、状況や予想される原因に基づいた支援を行うことで状況が改善することがあります。以下にて手立ての一例を紹介します。

・スムーズに読めない。



- ・文や行を指で押さえながら読む。
- ・スリットシートなどのグッズを利用する。
- ・視覚トレーニングなど眼球の動きをスムーズにする運動を行う。

・漢字が読めない。



- ・音読の前に、全員で漢字を確認し、ふり仮名を書きこませる時間をとる。

・単語や文のまとまりが理解しにくい。



- ・文節ごとに斜線を引く、文のまとまりごとに段落を変える、文字の大きさを変えるなど、読みやすくし、理解しやすくする。

・全体で発表することが苦手



- ・班の中で発表するなど、発表する単位を小さくする。
- ・練習する機会（リハーサル）をつくり、自信を持たせる。
- ・課題の量や内容を簡単にして、発表しやすくする。

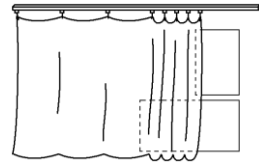
※ 状況を分析し、その背景や要因を丁寧に見ていくことが大切になります。

行動面

例えば、落ち着きがなく**授業に集中できにくい**など、刺激が入りやすく、衝動性が特徴である児童生徒について、環境を整えるという点で学級経営を見てみると…。

黒板周り

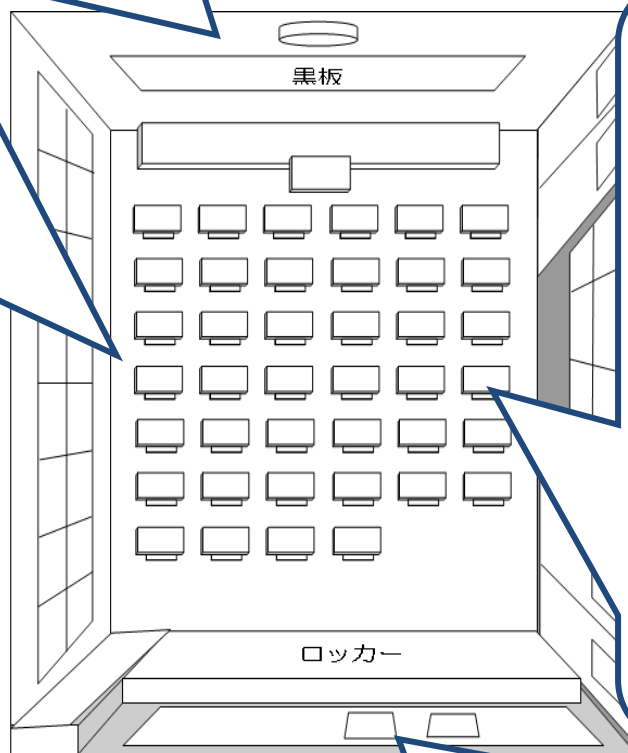
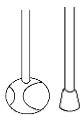
は、前を向いて学習することが多いので、カラフルな掲示物は不要な注意をひきます。学級目標や生徒作品なども側面や背面の掲示板を利用するなど工夫した掲示を行います。当番活動等の掲示物も、必要な時だけ見えるようにカーテンなどで隠すと気になりません。



窓側の席

は、窓の外のグラウンドに気を取られ、音による刺激なども入りやすい座席です。(車の音など)

聴覚過敏の子どもや、補聴器を付けている子どもにとってはイスや机を動かす音も気になったりうるさく感じる場合があります。机やイスの足に消音効果のあるクッション材やテニスボールなどを付けることも有効です。



座席の配置

は、他の児童生徒の行動に影響を受けやすい子どもは、なるべく前にし、刺激が入りにくくすることが有効です。

逆に、モデルがあった方が見通しが持て、安心できる児童・生徒は、見本にできる子どもの後ろに配置することが有効です。

ペア学習など、すぐサポートできる子どもを配置することも有効な方法です。

後ろの掲示板

は、掲示物を掲示するほかに、後ろに黒板があれば、連絡黒板として利用します。委員会の情報などをわかりやすく整理して記入します。どんな情報がどこに書かれているかパターンを決めることが有効です。

また、翌日の連絡黒板として使い、終わりの会に後ろを向いて連絡を写すことから始める方法もあります。他にも、翌日の連絡をロッカーの上に置いた小黒板で表示し、必要なときのみ前に持ってくるなどの活用も有効です。

※ 学級経営を行っていくうえで、教室の環境整備はとても大切になります。子どもたちが生き生きと活動できるように、子どもの認知特性などに配慮した学習環境を整備することが必要です。特別支援教育の視点を入れて、学級の学習環境を見つめてみてください。

☆次回の6月号の内容は「個別の指導計画作成にあたって」を予定しています。